

[成果情報名] タバココナジラミ卵、幼虫、成虫に対する市販の気門封鎖剤の殺虫効果

[要 約] タバココナジラミの卵、幼虫、成虫に対する市販の気門封鎖剤 9 剤の殺虫効果を明らかにした。

[キーワード] タバココナジラミ、農薬、気門封鎖剤

[担当] 静岡県農林技研・植物保護・環境保全科

[連絡先] 0538-36-1556、agrihogo@pref.shizuoka.lg.jp

[区分] 生産環境（病害虫）

[分類] 技術・参考

---

#### [背景・ねらい]

様々な施設園芸作物において、タバココナジラミは薬剤抵抗性が著しく発達し、農薬での防除が困難な最重要病害虫となっている。一方、気門封鎖剤は糖、油脂、界面活性剤等を主成分とした農薬で、薬剤抵抗性の発達リスクが低いとされており、生産現場で広く活用されている。そこで市販の気門封鎖剤 9 剤を対象にタバココナジラミの各生育ステージへの殺虫効果を評価した。

#### [成果の内容・特徴]

- 1 タバココナジラミバイオタイプ Q の卵、3 齢幼虫、成虫を対象に、室内環境下において市販の気門封鎖剤 9 剤（表 1）を処理し、殺虫効果を評価した。
- 2 卵に対してはサンクリスタル乳剤、サフオイル乳剤、フーモンにおいて殺卵効果が認められた。特にサフオイル乳剤は 70% 以上の高い補正死亡率を示した。
- 3 3 齢幼虫に対してはサンクリスタル乳剤、サフオイル乳剤の他、アカリタッチ乳剤、フーモン、ピタイチで 90% 以上の高い補正死亡率を示した。
- 4 成虫に対しては粘着くん液剤、エコピタ液剤、オレート液剤、ムシラップで 90% 以上の高い補正死亡率を示した。

#### [成果の活用面・留意点]

- 1 本試験はメロン苗を供試し、室内環境下で実施した結果である。
- 2 気門封鎖剤は害虫に対し物理的に作用する薬剤のため、虫体に確実にかかるよう葉裏をめがけて散布すること。
- 3 薬剤の使用に当たっては適用作物、使用上の注意を確認すること。

[具体的データ]

表 1 試験に用いた薬剤一覧

系統	農薬名	種類名	有効成分含有量 (%)	希釈倍率
糖	粘着くん液剤	ヒドロキシプロピル化リン酸架橋デンプン液剤	5	100
	エコピタ液剤	還元澱粉糖化物液剤	60	100
油脂	サンクリスタル乳剤	脂肪酸グリセリド乳剤	90	300
	サフオイル乳剤	調合油乳剤	97	300
界面活性剤	オレート液剤	オレイン酸ナトリウム液剤	20	100
	アカリタッチ乳剤※	プロピレングリコールモノ脂肪酸エステル乳剤	70	1000
	ムシラップ	ソルビタン脂肪酸エステル乳剤	70	500
	フーモン	ポリグリセリン脂肪酸エステル乳剤	82.5	1000
	ピタイチ	グリセリンクエン酸脂肪酸エステル乳剤	50	500
マクロライド	アグリメック (参考)	アバメクチン乳剤	1.8	1000

※コナジラミ類への登録なし

表 2 タバココナジラミの卵、3 齢幼虫及び成虫に対する気門封鎖剤の殺虫効果

農薬名	補正死亡率 (%)		
	卵	3 齢幼虫	成虫
粘着くん液剤	×	△	◎
エコピタ液剤	×	○	◎
サンクリスタル乳剤	△	◎	○
サフオイル乳剤	○	◎	○
オレート液剤	×	○	◎
アカリタッチ乳剤	×	◎	○
ムシラップ	×	○	◎
フーモン	△	◎	△
ピタイチ	×	◎	○
アグリメック (参考)	△	◎	◎

補正死亡率は Abbott(1925)の補正式により算出。

◎:補正死亡率 90%以上、○:70%以上 90%未満、△:30%以上 70%未満、×:30%未満

[その他]

研究課題名：新たな天敵を基幹としたメロンの難防除害虫の総合防除法の開発

予算区分：県単

研究期間：2023～2025 年度

研究担当者：曾根良輔・中野亮平・片山晴喜

発表論文等：なし